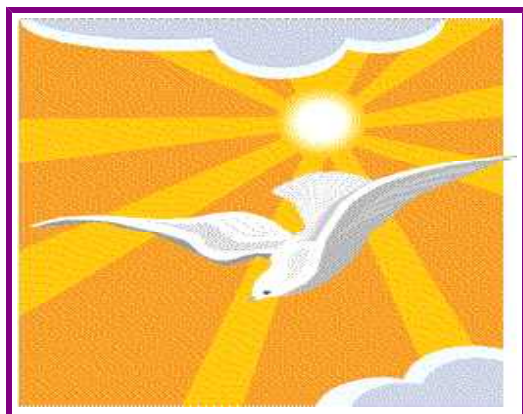


# めぐみイエス・キリスト教会

2020年6月28日(日)第四主日礼拝  
週報「通算第512号」



## 2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年6月28日 第四主日礼拝 午前10時  
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌361「栄えの王にます主の」 p. 578

【交読文】 No.56 ローマ人への手紙第12章 p. 924

【賛美Ⅱ】 新聖歌420「雨を降り注ぎ」 p. 676

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.5 「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き2章34節～41節(2017新約p. 235上段)

【礼拝説教】 《ペテロの説教から(その三)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所「使徒の働き」2章34節～41節

2:34 ダビデが天に上ったのではありません。彼自身こう言っています。  
『主は、私の主に言われた。あなたは、私の右の座に着いていなさい。

2:35 私があなたの敵をあなたの足台とするまで。』

2:36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。

そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

2:39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

2:40 ペテロは、ほかにも多くの言葉をもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼の言葉を受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

### ●ポイント1.ペテロが引用したダビデの詩篇とは？

#### ※詩篇110篇1節「ダビデによる賛歌」(旧約p.1053上段左側)

110:1【主】は私の主に言われた。「あなたは私の右の座に着いていなさい。私があなたの敵をあなたの足台とするまで。」

### ●ポイント2. 2章38節における聖霊を受ける為の順番とは？

#### ※テモテへの手紙1章7節「パウロの言葉より」(新約p.425下段右側)

1:7 神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えて下さいました。

### ●ポイント3. 「私たちの神である主が召される人なら誰でも」とは？

#### ※ヨハネの福音書15章16節～19節前半「主の言葉から」(新約p.216)

15:16「あなたがたが私を選んだのではなく、私があなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたが私の名によって父に求めるものをすべて、父が与えて下さるようになるためです。

15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、私はこれを、あなたがたに命じます。

15:18 世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先に私を憎んだことを知っておきなさい。

15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。私が世からあなたがたを選び出したのです。」

## ◎先週のメッセージの概要【ペテロの説教から(その二)】

《イエス様の十字架は、この時点からは五十日前の出来事になります。集まって来た人々とは、敬虔なユダヤ人たちで、彼らは、過越の祭の一週間前からエルサレムにやって来て、身を清めて備えるのが常でした。

そして過越の祭の週を過ごし、五旬節の刈り入れの祭を過ごしてから、自分の国に帰るのが習わしでありました。その彼らが、エルサレムにやって来た時に、ナザレのイエスの話題がちまたに溢れていたのです。「神が定めた計画と予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。」

この言葉はユダヤ人たちの心に突き刺さりました。なぜなら彼らは群衆の中にいたからです。「十字架につけろ」と叫んだのは、彼らなのです。

次にペテロは、「主イエスの復活」について話し始めます。

「神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。」と。そして続けて、ダビデの詩篇16篇を引用します。何と、ほぼ原文そのままにです。

まさしく聖霊の御わざを見ることが出来ます。ここに私たちへの教訓があります。神はその人の能力ではなく、その人をあるがままに用いられると言うことです。大切なことは、主の御前にへりくだることなのです。謙遜を尽くし、謙虚になることです。ペテロは、主イエス様を三回にもわたって否定しました。それこそが真のリーダーとなる為の道程であったのです。「イエスを神はよみがえらせました。私たちは皆、そのことの証人です。」

この証言は真実であって、彼らは体験したからこそ、まったく変えられたのです。「十字架」と「復活」、これが福音です。主イエス様は死を経験されました。私たちが死なない為に。三日目によみがえられました。私たちが永遠に生きる為に。このお方がすべての人の主です。命を握っておられ、すべてを支配され、そして私たちと共にいて下さるのです。》

## ◎お知らせ

※次回「第一主日礼拝」は、7月5日(日)教会にて行ないます。しばらくの間、夜の第二礼拝はお休みします。また「聖書の学びと祈り会」も、しばらくの間、各家庭にて分かれて、行なうことに変更となっています。